



1. 腎臓内科の特徴、特色

当科では、検尿異常から末期腎不全まで、あらゆる病期・ステージの腎疾患を診療対象としています。また、末期腎不全に対しては血液透析（施設・家庭）、腹膜透析そして腎移植というすべての腎代替療法のオプションを提供しています。そのため、当科では各種腎疾患に対し幅広い知識と臨床能力・技術を持ち、総合的に診療できる腎臓内科専門医を育成することを第一の目標としています。さらに、自分の専門分野に関しては、常に国際的な視野に立って臨床・研究を進め、情報を発信することができる腎臓内科医を育成することを第二の目標としています。

2. 診療実績（平成 27 年度）

外来患者数 32,535 人、入院患者数 659 人、腎生検件数 94 件、血液・腹膜透析新規導入数 140 人、維持血液透析患者数 90 人、腹膜透析患者数 34 人、在宅血液透析患者数 57 人、アフェレーシス件数 257 件、持続的血液浄化 501 件

3. 診療科の体制

教授・診療部長：岡田浩一

准教授：井上勉、大野洋一（地域医学・医療センター兼任）

講師：友利浩司（医局長）、

小島智亜里、井上秀二、渡辺裕輔（埼玉医大国際医療センター、血液浄化部部長）

4. プログラムの目的と特徴

目的① ローテーション（1 - 3 か月）して頂く専修医の先生の場合

- ・研修は埼玉医科大学病院の腎臓内科病棟担当医として行います。
- ・維持血液透析（一般的な血液透析）、腹膜透析、持続血液透析、慢性腎炎症候群、ネフローゼ症候群、（腹膜・血液）透析導入の症例を経験できます。各種レクチャーも充実しており、総合内科医として必要な腎臓内科の知識・手技を習得する事が可能です。

目的② 入局頂いた専修医の先生へ

- ・研修は埼玉医科大学病院の病棟の他、血液浄化ユニット、埼玉医大国際医療センター血液浄化部、周辺医療施設で行います。各種腎疾患に対し、単独で対応、診療にあたることができるようになる事が研修の目標です。
- ・入局後すぐに内科認定医の取得準備をして頂きます。取得後、希望があれば研修指定病院で内科（腎臓内科に限らず）を中心とした後期研修（2年）をする事が可能です。各病院の指導医とともに初期研修医の指導に当たりながら自分の経験を積んで下さい。総合内科専門医受験の為の準備となります。
- ・卒後最短 7 年、遅くとも 10 年目までに、総合内科専門医、腎臓内科専門医、透析専門医を順次取得します。教室員全員が同様に取得しており全く心配は要りません！院内では病棟指導医として研修医の指導に当たり、やがては医長として医療管理業務の一部を経験して頂きます。

特徴① 目標が具体的で、その為の適切な機会が用意されている

- ・ただ漫然と病棟の担当医だけを何年間も御願ひすることはありません。急性血液浄化を学ぶためには国際医療センターに行ってくださいし、総合内科専門医の準備のためにも「内科認定医取得後」に、もう一度、より高度で総合的な内科研修を受けて頂きます。適切な時期に適切な場所で相応の学習機会を準備しますので、当科のプログラムにのって頂ければ、標準的な力量のある腎臓内科専門医・透析専門医になれます。

特徴② それぞれの生き方を尊重する

- ・立派な志と技術をもった「役に立つ臨床医」を養成するために綿密なプログラムを用意しています。また個人の希望・嗜好に応じて、「一芸に秀でる」ための協力は惜しみません。原則として全員に臨床研究を通して医学博士号の取得を目指していただきますが、社会人大学院生となって基礎研究を行うこと、さらには海外留学の道も選択できます。

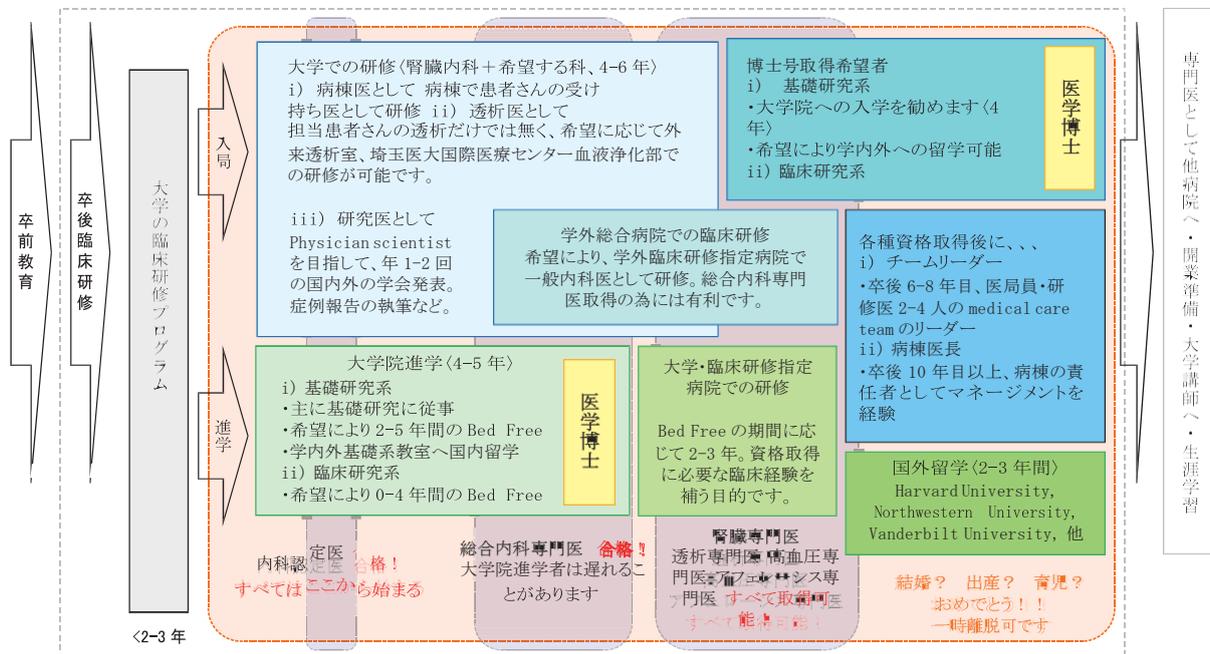
腎臓内科は想像以上に多種多様な業務がある内科で、例えばしばらく臨床を離れても、希望したときに現場に復帰しやすい就業形態・業務内容を用意できます。若い間の修行は必要ですが、模式図には表現できない多様なキャリアデザインが可能な内科なのです。

特徴③ 女性医師大歓迎です

- ・当科では、結婚・出産・育児などで一時的に臨床を離れた後に、色々な勤務形態で復帰されている女性医師が多数おります。大学病院勤務だけではなく、関連施設の非常勤勤務（パートタイム勤務）など様々な勤務形態の要望に対応可能です。また近隣の関連施設で対応困難なケースは、当科が必ず引き受けますので、安心して診療が出来ます。当科はワーク・ライフ・バランスのとれたキャリア実現に真剣に取り組んでいます。

5. キャリアパス（取得可能な資格）

日本内科学会内科認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医、日本アフェレーシス学会専門医、日本高血圧学会専門医等



6. 連絡先

連絡先：友利（医局長）電話：049-276-1611 メール：tomoriko@saitama-med.ac.jp

随時見学可能